

平成30年8月16日

平成30年度病虫害発生予報第5号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稲	いもち病（穂いもち） 紋枯病 縞葉枯病 トビイロウンカ （防除情報第12号継続） コブノメイガ 穂吸汁性カメムシ類	並 やや少 少 やや少 少 やや少	並 並 少 並 少 並
大豆	ハスモンヨトウ	並	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病 （ <i>Glomerella cingulata</i> ） 輪斑病 ハダニ類（注意報第3号継続）	並 やや少 やや少 多	並 やや少 やや少 多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病・斑点病） アザミウマ類	並 並	並 並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 少 やや少 やや少	並 少 やや少 やや少
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	少 並	少 並
果樹共通	カメムシ類 （防除情報第11号継続）	やや多	やや多
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	少 並 並 並 やや多 やや少 やや多	少 並 並 並 やや多 やや少 やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 8月前期の巡回調査（86筆）の結果、葉いもちの発病株率は2.8%（1.3%）、発生圃場率は9.3%（18.4%）で一部多発圃場があった。
- イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、葉いもちの発病株率は40.5%（4.4%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉いもちの発生が認められる圃場では穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。
- イ 追肥を行う場合は、過剰にならないよう適正量を施肥する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 8月前期の巡回調査（86筆）の結果、発病株率は0.5%（0.8%）、発生圃場率は5.8%（15.3%）であった。
- イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は16.0%（8.8%）であった。
- ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

- ア 8月前期の巡回調査（86筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.2%、発生圃場率17.8%）。
- イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生は認めなかった（発病株率0.1%）。
- ウ 8月前期の巡回調査（86筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭（0.3頭）、発生圃場率は47.7%（68.3%）であった。
- エ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、株当たり虫数は0.4頭（0.4頭）、寄生株率は39.0%（24.9%）であった。

4. トビイロウンカ

平成30年8月10日付け、**病害虫発生予察防除情報第12号**を継続。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

- ア 8月前期の巡回調査（86筆）の結果、食害株率は0.1%（5.1%）、発生圃場率は2.3%（43.2%）であった。
- イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、食害株率は3.0%（22.8%）であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月前期のイネ科雑草におけるすくい取り巡回調査(25地点)の結果、捕虫網による10回すくい取り当たり虫数は8.6頭(14.1頭)と平年よりやや少なかった(表)。カメムシ類の種別では、アカスジカスミカメが最も多かった(表)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別							発生地点率	
	H26	H27	H28	H29	平年	H30	平年	H30
ホリハリカメムシ	1.6	1.6	2.4	1.3	1.6	1.6	80.4	72.0
クモヘリカメムシ	0.6	1.1	0.7	0.6	0.9	0.8	50.0	44.0
シラホシカメムシ	0.6	0.3	1.0	0.4	0.6	0.7	55.4	52.0
アカスジカスミカメ	6.9	15.0	14.5	7.6	10.7	5.5	87.7	84.0
ミナミアオカメムシ	0	0	0.0	0.0	0.0	0	3.2	0
計	9.9	17.9	18.7	10.0	14.1	8.6		

注) 平年はH20～29年の最大・最小値を除いた平均値

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類の飛来・増殖源であるイネ科雑草の除去等、圃場環境整備に努めるが、水稻の出穂10日前以降の除草はカメムシ類の圃場内への侵入を助長するので避ける。

イ 防除時期は穂揃い期とその7～10日後の2回が基本である。

ウ 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布を行うと効果が高い。

エ 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境(ミツバチや水産動植物等)に配慮し、薬剤の飛散に十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は5.1%(4.1%)、株当たり虫数は0.1頭(0.2頭)、白変葉発生圃場率は73.3%(53.6%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並に推移している(図)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

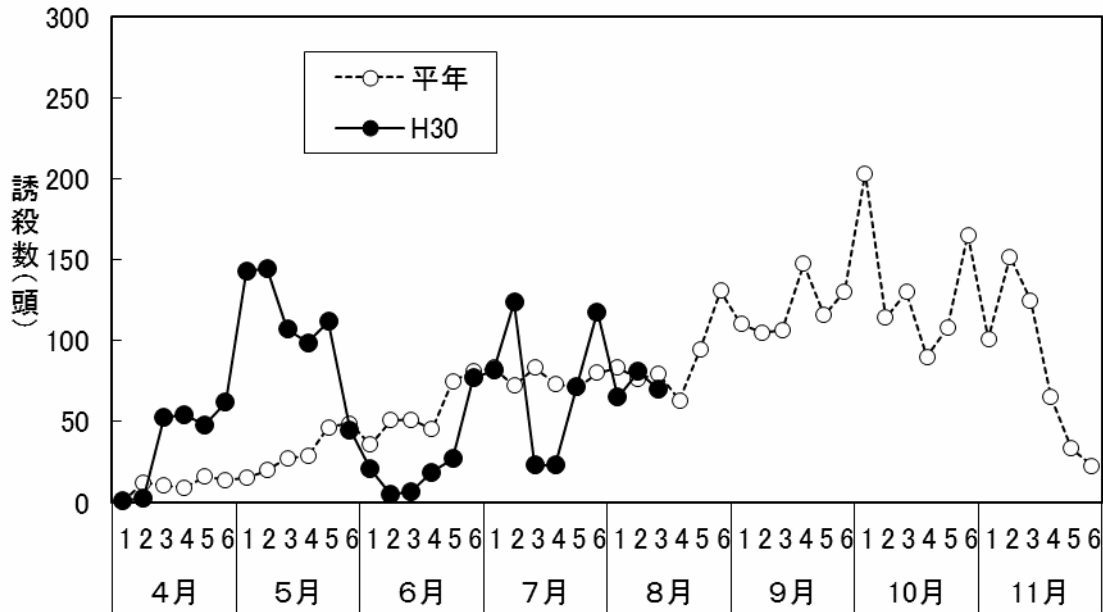


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半旬)
 平年: H20~H29年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(29筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.02%、発生圃場率1.9%)。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(29筆)の結果、発病株率は0.01%(0.15%)、発生圃場率は3.5%(7.7%)であった。

- (3) 7月上旬に県内18か所(9地域×2圃場)の育苗床の苗から1圃場あたり20複葉(1複葉×20株)を採取し、エタノール噴霧法による炭疽病菌の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株の発生圃場率は83.3%(過去7か年平均65.6%)、潜在感染株率は31.7%(過去7か年平均44.3%)であった。

(4) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、発病した苗およびその周辺株は速やかに処分する。また、除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- イ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に激しい雨や台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。

ウ 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。

エ 株冷・夜冷処理を行う場合は、入庫前に必ず感染株の抜き取りを行う。また、入庫による株の消耗で発病が助長されるため、入庫前後の薬剤防除は必ず行う。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(29筆)の結果、発病株率は4.7%(12.1%)、発生圃場率は41.4%(52.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

摘葉した被害葉は伝染源となるので圃場外に持ち出し処分する。

4. ハダニ類

平成30年8月10日付け、**病害虫発生予察注意報第3号**を継続。

アスパラガス

1. 斑点性病害(褐斑病・斑点病)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病側枝率は4.8%(2.9%)、発生圃場率は58.3%(38.2%)で、一部地域で多発していた。

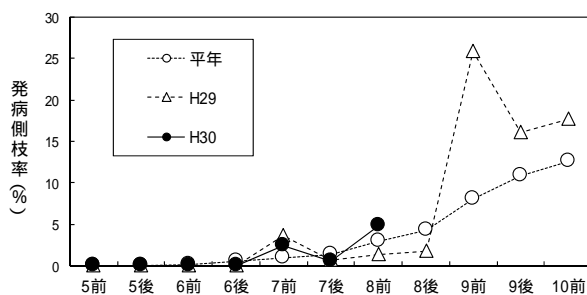


図 斑点性病害 発病側枝率の推移

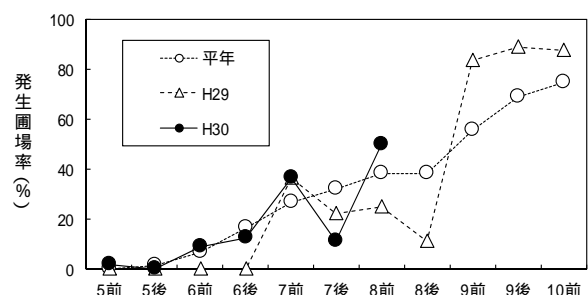


図 斑点性病害 発生圃場率の推移

2. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は5.5頭(14.8頭)、発生圃場率は75.0%(67.2%)であった。

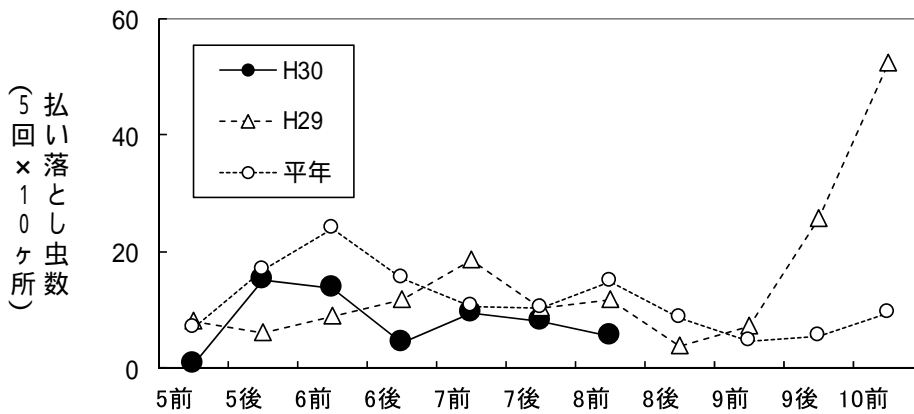


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(8.7%)であった。発病果は発生を認めなかった(発病果率0.2%、発生圃場率6.4%)。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は1.7%(8.0%)、発生圃場率は16.7%(43.4%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は9.3%(13.4%)、発生圃場率は44.4%(57.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 盛夏期を過ぎて気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。
- イ 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一薬剤は連用しない。
- ウ 薬剤感受性が低下している場合があるので、効果の高い薬剤を選定する。具体的データについては、病害虫防除所ホームページのかんきつのミカンハダニ薬剤感受性検定結果参照。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は0.4%(1.4%)、発生圃場率は11.1%(19.8%)であった。果頂部の被害は認められなかった(被害果率0.2%、発生圃場率5.9%)。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並で推移している（図）。

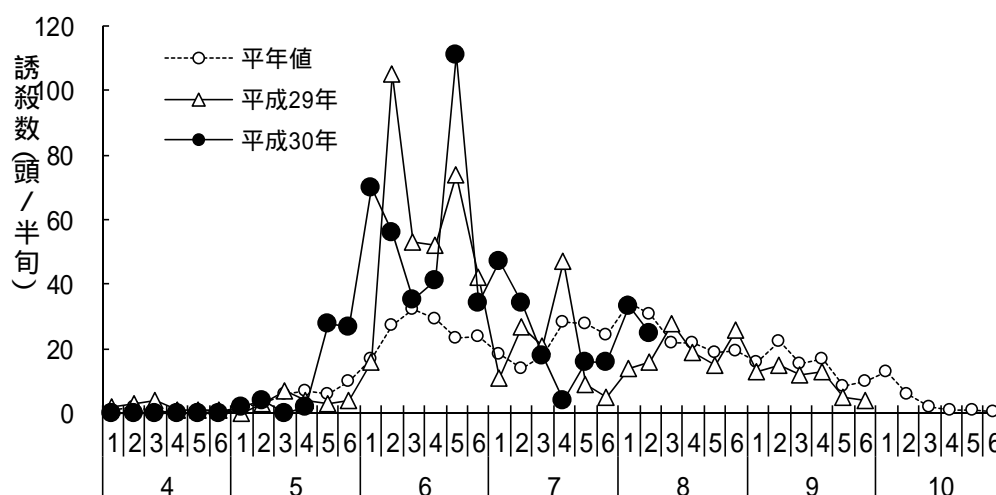


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況（月・半旬）
（諫早市小船越町：黄色粘着トラップ）

（ 3 ） 防除上注意すべき事項

ア 下表に示した発生ピーク予測日を参考にして適期に防除する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第6世代	8/13	8/14	8/24	8/16	8/29
〃（平年）	8/22	8/29	9/2	8/23	9/9
〃（前年）	8/18	8/18	8/29	8/22	8/31
第7世代	8/30	8/31	9/12	9/2	9/19
〃（平年）	9/8	9/18	9/23	9/9	10/2
〃（前年）	9/5	9/5	9/21	9/10	9/22
第8世代	9/17	9/20	10/16	9/21	10/16
〃（平年）	9/29	10/13	10/21	9/30	11/8
〃（前年）	9/27	9/26	10/19	10/3	10/20
標高(m)	27	4	43	10	58

注1：発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2018年8月14日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2：同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3：表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発病枝葉率1.2%、発生圃場率31.3%）。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.2%、発生圃場率6.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

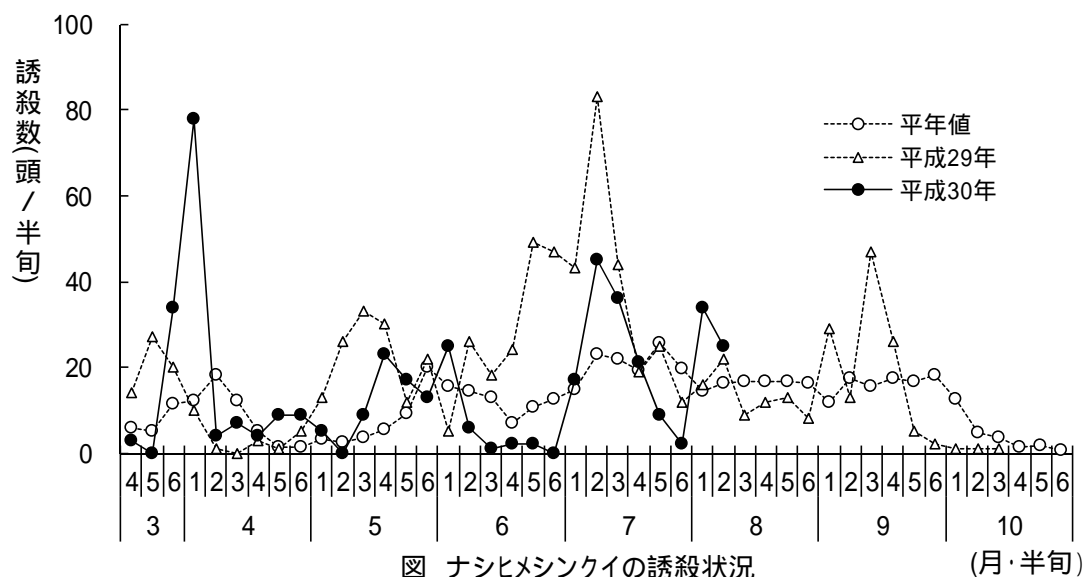


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

せん定跡に食入しやすいので、せん定や芽かき後には必ず防除する。

果樹共通

1. カメムシ類

平成30年8月6日付け、**病害虫発生予察防除情報第11号**を継続。

なお、その後の発生は以下のとおりである。

ア フェロモントラップにおける誘殺状況は8月に入り平年並に減少した(図)。

イ 8月前期の巡回調査(かんきつ、なし)の結果、発生を認めなかった。

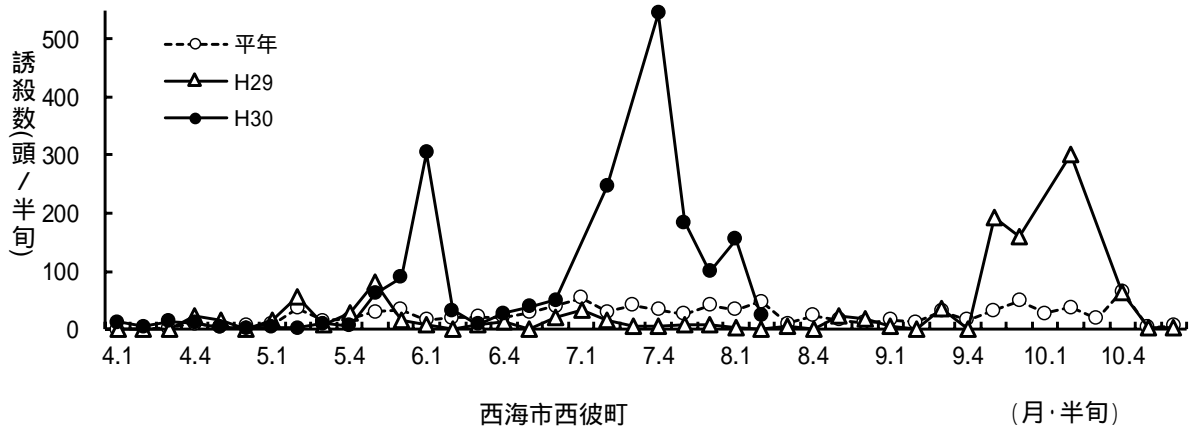
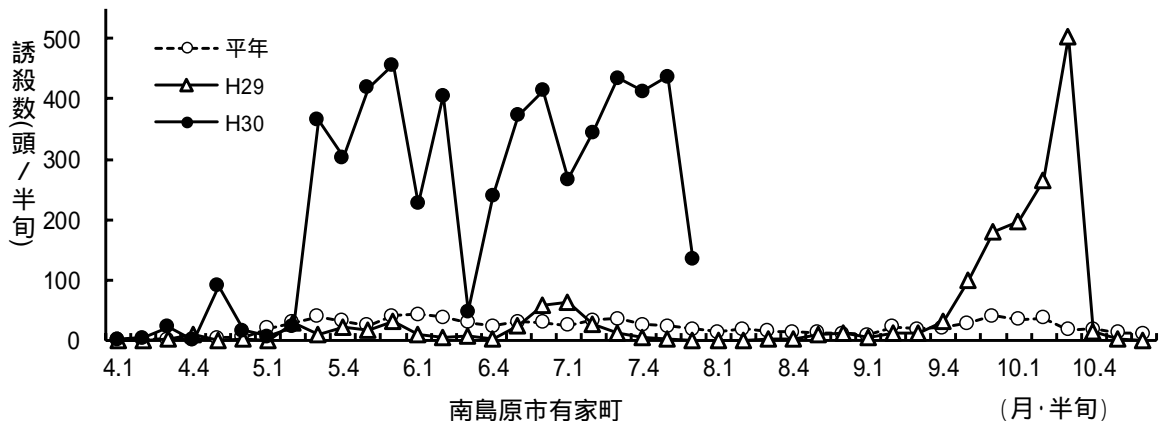
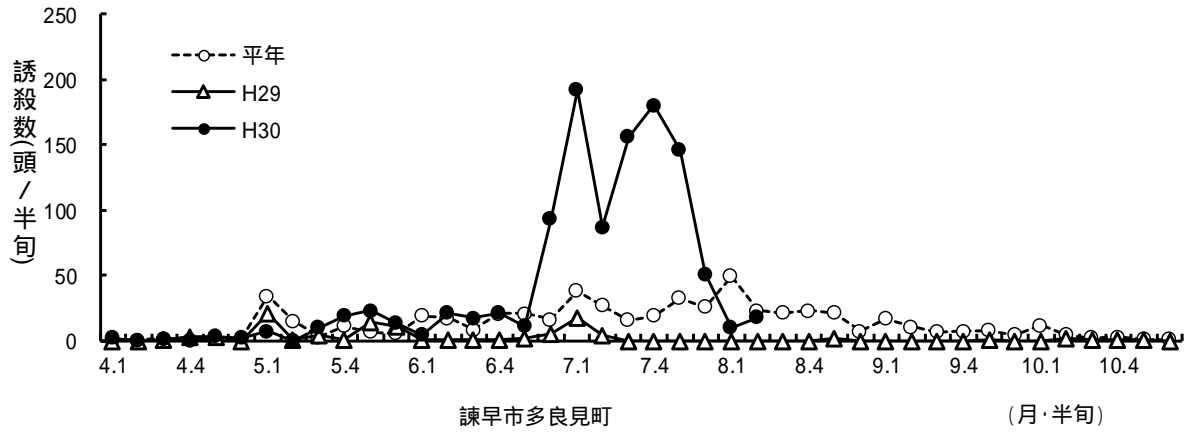
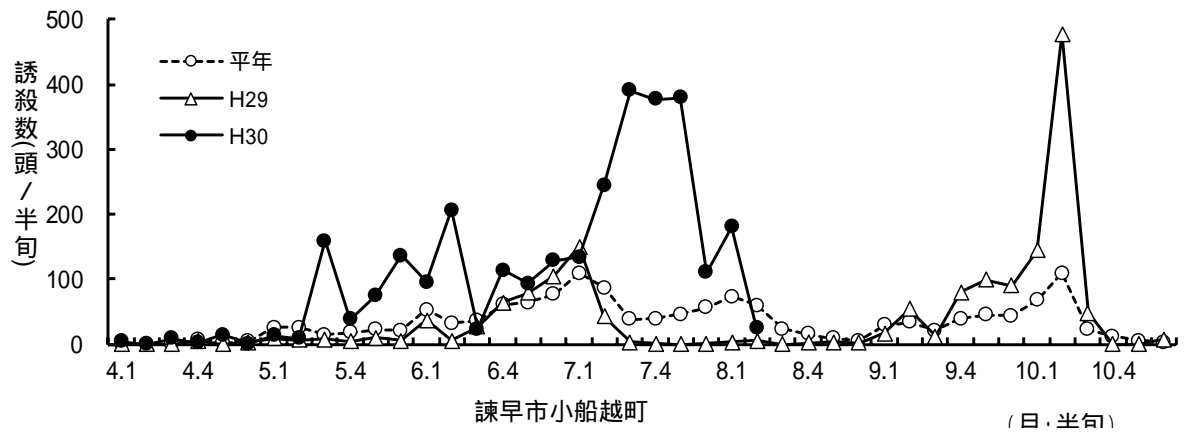


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(15筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は0.0枚(3.5枚)、発生圃場率は20.0%(50.0%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(15筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は26.5頭(29.0頭)、発生圃場率は93.3%(96.3%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.2枚、発生圃場率13.9%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

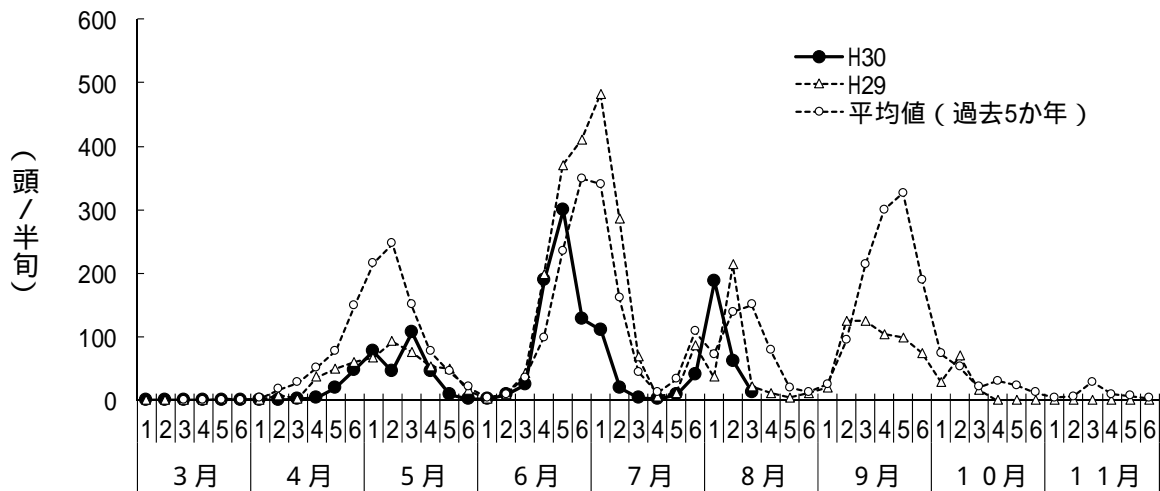


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.2枚、発生圃場率15.5%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

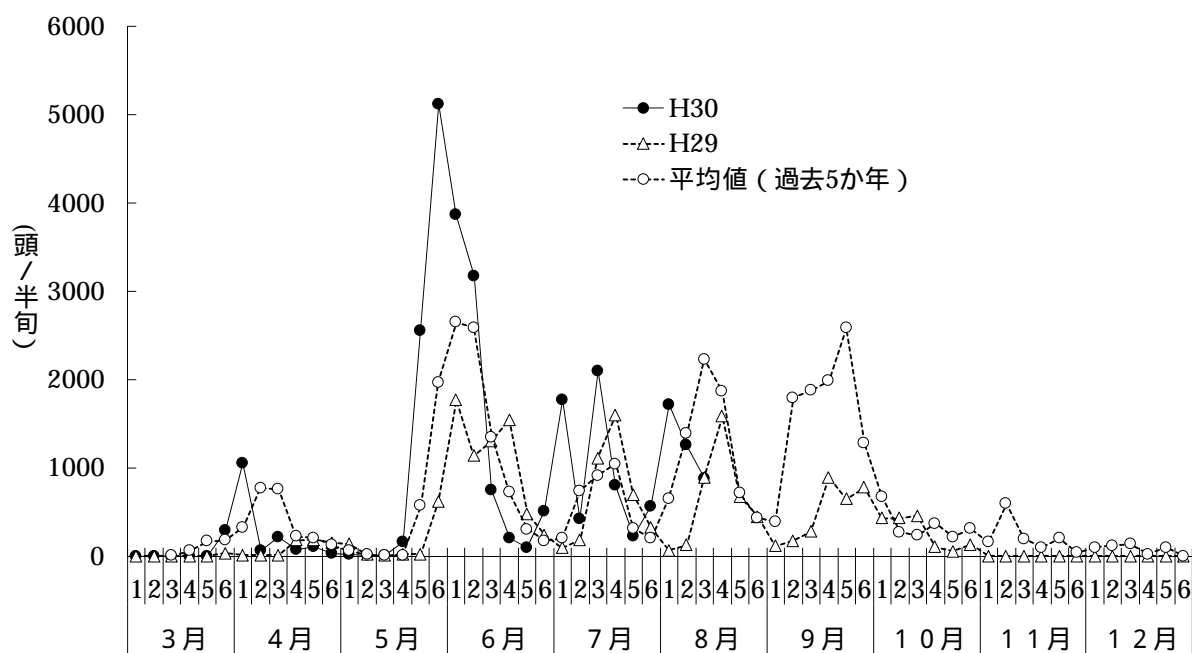


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生葉率は2.7%（0.7%）、発生圃場率は40.0%（18.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（15筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は1.4頭（3.3頭）、発生圃場率は33.3%（58.3%）であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は16.3%（9.1%）、発生圃場率は40.0%（41.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が多い園では、第3世代の防除を行う。

【参考】

(平成30年8月16日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

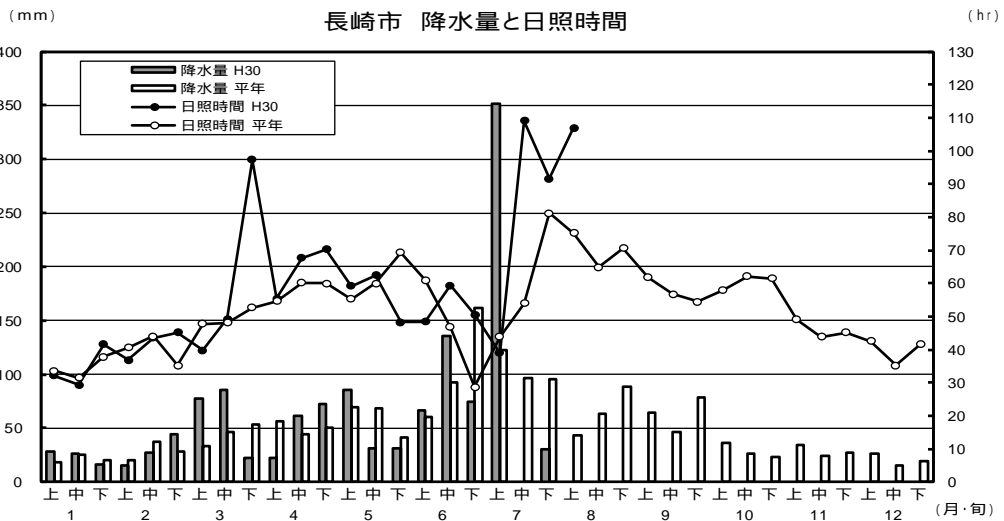
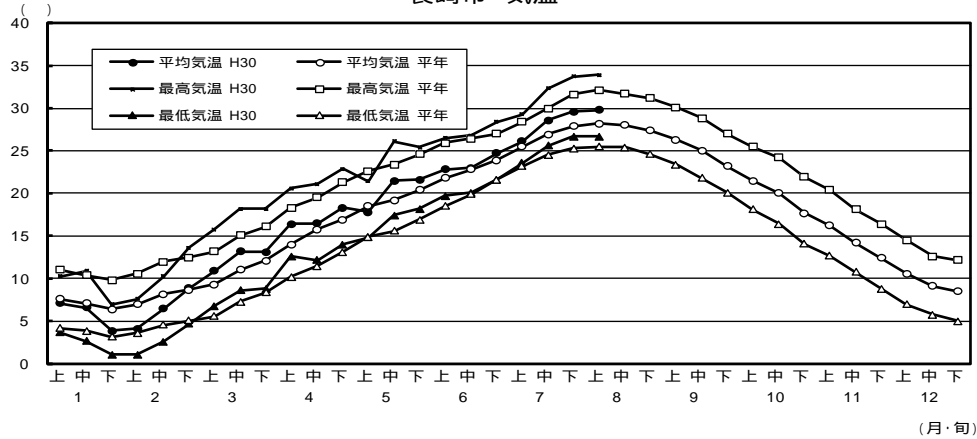
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成30年の気象経過（長崎地方气象台）

長崎市 気温



6月1日から8月31日までの3か月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

水稻穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、「蜜蜂」に被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。

長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話をお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

